第3回（9月14日）　スライド＆トーク　「アイルランド ― テーマのある旅」

"Going into the West"

中郷　安浩

1975 年にアイルランド政府奨学資金を受けて、UCG (University College Galway)に一年間いた。これまで、アイルランドへは、長短あわせて７回行っているが、常にベイスとしているのがゴールウェイである。"To hell, or to Connaught,"という言葉があるが、西部こそがアイルランド精神の息吹く所である。

過去 20 数年、私はアイルランドの写真を数千枚撮ってきた。素人芸でもあり、いい写真がどれだけあったかわからないが、私は私なりに、フィルムを通して観察したことを再現しようとしてきた。

今回の発表は Shannon より西部を舞台とした映画と私のスライドをトークで繋ぐ形式をとった。具体的な地理的範囲は、Clare, Galway, Mayo である。使用した映画は、*The Quiet Man*『静かなる男』〈映画に現れた実際の場所：Cong, Oughterard と Maum Cross の間、Spiddal, Ross Abbey, Thor Ballylee, Maum から Maum Cross よりの所、Cornamona, Leenane, etc.〉、*Ryan's Daughter*『ライアンの娘』〈Cliffs of Moher〉、*Far and Away*『遥かなる大地へ』〈Poulnabrone dolmen〉、*Into the West*『白馬の伝説』〈Cliffs of Moher〉。この他にも、主としてロケ現場となり、実際にバーとして使われ、今ではタイトル名そのものが固有名詞となっている *The Field* と Leenane にも触れたかったのだが、もう２時間が過ぎていたので、残念ながらカットせざるを得なかった。

私の留学時代には、一年間で日本人を数名目にしたに過ぎなかったが、昨年行った時には、本通りを歩くだけで、一時間もしないうちに、20 人以上の日本人に出会った。さらに、Aran で Dún Aengus にサイクリングした際に、大学の同僚とばったり出会ったのには驚いた。

ゴールウェイばかりでなく、クレアやメイオウに寄る日本人も最近は多くなった。しかし、Cliffs of Moher や Poulnabrone Dolmen だけというのは惜しい。歴史、地学、動植物学等、多大な情報量が得られる。写真を撮ったり、音楽を楽しんだりして、ゆっくりと何泊か取ることが必要。